

Shogitai
彰義隊

150



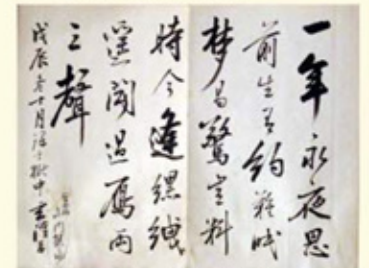
上野彰義隊百五十回忌墓前法要

主催 日蓮宗東京都北部宗務所

2017年5月15日(月)



㊤「彰義隊奮戦之図」

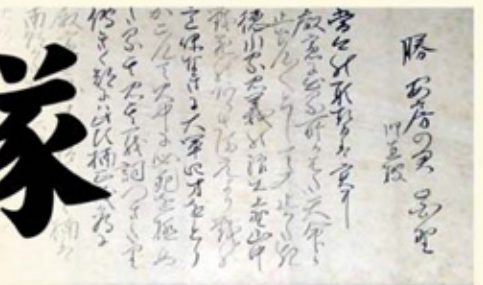


㊦隊士による獄中寄書き(部分①)



隊士による獄中寄書き(部分②)

うえの しょうぎたい 上野彰義隊



木城花野から勝海舟あての手紙(部分)

大政奉還後に朝敵とされた十五代将軍徳川慶喜公の助命嘆願を目的に、一ツ橋藩主時代の側近らが慶應4年(1868)2月に会合を持った。これらの人々を中心として彰義隊が生まれた。

江戸の政務を預かる旧幕府は、彰義隊に江戸の治安維持の役を命じたが、隊士と東征軍(新政府軍)の兵士たちとの小競り合いが続いた。

慶喜公は水戸徳川家に移る際、新政府をはばかりて彰義隊の随行を許さなかったため、彰義隊は寛永寺貫主の輪王寺宮公現法親王(後の北白川宮能久親王)を警護する名目で上野に残留した。

新政府の参謀大村益次郎は、東征軍の威信を見せつけるねらいで閏5月15日に、西郷隆盛の前線指揮のもと上野総攻撃を仕掛けた。人数と武器に勝る東征軍の勝利で上野戦争は半日で終わった。

隊士の妻・木城花野は、野ざらしにされた彰義隊士の遺体の悲惨さを勝海舟に訴えた。その後、三の輪円通寺の住職・佛磨らの手により、上野山王社跡(現上野彰義隊墓所)において隊士の遺体は茶毘にふされた。

生き残った隊士の小川興郷(相太)らにより、明治8年(1875)年、唐銅の塔が火葬の地に完成したが、借財のかたにまもなく持ち去られた。窮状を見かねた白山大乘寺の住職鶏々日瞬僧正(後の池上本門寺貫首)の援助により、明治17年(1884)に墓所が再建された。現存する大墓石の文字「戦死の墓」は、小川と親交が篤かった山岡鉄舟の筆になる。

なお、その前に置かれた小墓石は、寛永寺・寒松院と護国院の主僧によって明治2年(1869)につくられた。

〔旧上野彰義隊墓所事務局・小川 潔〕

彰義隊の墓(上野公園内)

毎年5月15日、日蓮宗東京都北部宗務所による墓前供養



有縁寺院梵鐘伝供

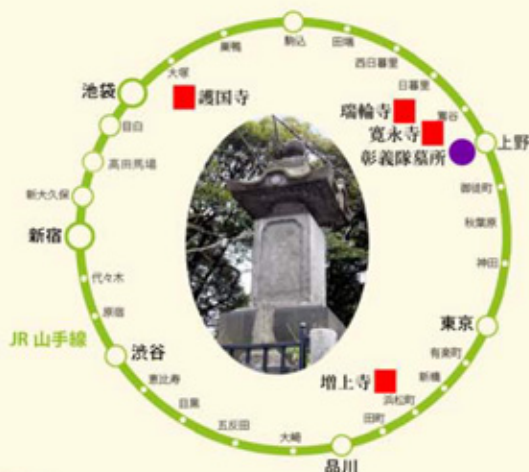
5月15日(月) 11時



護国寺



瑞輪寺



寛永寺



■ 本門寺



本門寺



増上寺

上野彰義隊第百五十回忌墓前法要の供養に、上野の山に梵鐘が鳴ります。徳川幕府最後の将軍・徳川慶喜公の「無血開城」の決断により江戸の町が無傷で残り、現在の東京があります。佛教各宗派が打ち鳴らす梵鐘の一打一打の音は、上野戦争の多数の犠牲者への鎮魂であるとともに、明治維新から現代そして未来へと平和を願いつづける誓いの響きです。



上野彰義隊百五十回忌墓前法要



● 舞楽奉納「陵王」

● 徳川慶喜公筆「撰法華経」伝供



● 有縁寺院梵鐘伝供

特別協力 天台宗寛永寺
真言宗護国寺
日蓮宗瑞輪寺
浄土宗増上寺
日蓮宗本門寺
(50音順)

日時：2017年5月15日(月)

法要開式午前11時

場所：上野公園内彰義隊墓所

主催 日蓮宗東京都北部宗務所

事務局 東京都台東区谷中 5-9-26 龍泉寺内
Tel：03-3821-4601

協賛：日蓮宗 協力：下谷佛教会 後援：上野観光連盟・上野のれん会

上野彰義隊百五十回忌川柳供養兼誹風忌 (共催：川柳公論社・台東川柳人連盟)

幕末から150年。江戸の街は無血開城によって東京の礎となりました。その最後の年に、「江戸の意地」を見せたのが彰義隊でした。上野は、文芸川柳発祥の地でもあり、川柳中興の祖・阪井久良伎翁は、彰義隊隊士の思いを偲び川柳供養を続けました。150年の節目に当たり舞楽奉納や徳川慶喜公直筆の「撰法華経」伝供などの墓前法要とともに 同所で川柳による献句供養を行います。